

「助けて」と言える関係を

11月15日(日)穂高区防災訓練に参加しました。消防署長さんから「実際の災害時は、自助6割、共助3割、公助はわずか1割です」というお話がありました。備蓄して災害に備えることはもちろん、災害時は自分の身は自分で守り、隣近所で助け合うことが大切です。

私からは、あいさつの中で3点についてお伝えしました。

1点目は、災害情報等の取得について。

河川の氾濫が心配された7月豪雨では、「大雨の音で防災行政無線が聞こえず不安だった」との声が寄せられました。家の中にいても災害情報や避難情報を確実に取れるよう、市の防災ラジオ購入やメールサービスへの登録など、対策をしましょう。

2点目は、地震に関する情報。

今年5月に市内で地下500メートルを南北に伸びる9本の断層が発見されたとの報告がありました。「安曇野市では中規模の地震がいつ起こってもおかしくない」とのこと。訓練に加え、備蓄等の準備を必ずしましょう。

3点目は、県の社会福祉協議会職員の方から聞いた台風19号災害の経験から。

困っている人や困りごとを見つけるのに苦労したそうです。困ったときは遠慮せずSOSを出してください、とのこと。困ったときは、周囲に「助けて」と声をあげましょう。「助けて」と言いやすいように、日頃から顔の見える関係作りが大切です。皆さんの地域に、災害のときに困る人がいないか、お互いを気にかけてみましょう。



日頃から備えましょう

今後のごみ政策は？ ～新ごみ処理施設が始動～

安曇野市と周辺5町村で構成される穂高広域施設組合の新ごみ処理施設がほぼ完成し、11月12日に火入れ式がありました。新施設には、施設内の電気を賄い、余剰分は売電する最新式の蒸気タービンが備えられています。来年3月に本格始動します。



新ごみ処理施設

総工費約100億円。次の更新目途となる20年後までの運営費が含まれ、安曇野市の合併特例債も充てられています。ここで疑問が沸々と。20年後にまた100億円かけて新しいごみ処理施設を作るの？

最大の課題は、年間約3,000トン排出される焼却灰を域内ではなく、県内外の自治体に委託して最終処分していることではないかと感じます。世界を見渡すと、脱焼却・脱埋のごみゼロ化政策を打っている自治体もあります。ごみはそもそも資源である、との考えから、飲料の容器はビン詰めにして回収しやすく、生ごみは堆肥化するなど、徹底した資源リサイクルを進め、何気なく燃やして灰にして埋めることをやめる、という政策です。安曇野市でもこのように循環型社会を目指すべきではないでしょうか。

20年後に向けて今から「ごみゼロ化政策」を皆さまと考えるべきではないでしょうか。

安曇野さんさん通信 第12号

(2020(令和2)年11月20日発行)

ごあいさつ

晩秋の候ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスは第3波の流行を迎えています。長野県も全県でレベル2の注意報が発せられ、いまだ終息のきざしがみえません。寒さと乾燥が増す季節です。引き続き、手洗い・うがいの感染予防対策を徹底し、密を避け、毎日検温して体調のすぐれないときは外出を控えるなど、健康管理をしっかりとって過ごしましょう。



ご意見やお困りのことがありましたら一人で悩まずいつでもご相談ください。「困ったときはお互いさま」。皆で支え合い、難局を乗り越えましょう。



「安曇野、よいまちつくろう」～ 安曇野を深掘りし、発信します ～

新会派「政和クラブ」を結成しました

私を含め5人が従来の会派を離脱し、10月19日、新たに「政和クラブ」を結成しました。残りの任期1年を全うする所存です。引き続きご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

【政和クラブ理念(抜粋)】

- ◇市民の和◇ 誰ひとり取り残されることのない安曇野市を目指します
- ◇議会の和◇ 市民の皆さまの豊かな経験や能力が発揮できるよう政策立案し、議会に諮ります
- ◇地域の和◇ 地域住民がともに手を取り助けあうことができるように各方面に働きかけます
- ◇人々の和◇ 個人の福祉が経済成長や社会的包摂、環境保全と調和するように行動します

学校教育が変わります！ ～小中学校のICT化～

2カ月超の臨時休業を余儀なくされた今年。諸外国ではオンライン授業に切り替えましたが、日本では殆ど行えず、教育現場のICT(情報通信技術)化の遅れが明らかになりました。日本の子どもたちの端末利用は、もっぱらゲーム、インターネット利用(ネットサーフィンやYouTube等)に偏り、学習利用はOECD(経済開発協力機構)34か国のうち最低水準とのことでした。



適正なメディア利用を！

政府は、「1人1台端末」の整備等をうたう「GIGA(ギガ)スクール構想」の前倒しで推進することを明らかにしました。これを受けて安曇野市は、今年整備が完了する「電子黒板」の導入に加え、小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒に「1人1台の端末」の整備と、端末利用のできる「高速通信ネットワーク」環境の整備を令和2年度中に行うことになりました。これらの機器を、えんぴつやノートを使うように使うことが当面の目標になります。

一方でメディアとの付き合いでは、端末が発するブルーライトによる目の健康被害、メディア依存症やSNS等でのいじめの被害、課金トラブル等、が懸念されます。端末利用をゲームから学習に移行し、利用時間を制限する等のルール作りが必要ではないでしょうか。未来を担う子どもたちの教育環境について、皆さまにもぜひ関心を持って接して頂きたいと思っております。

発行 小林ようこ後援会 安曇野市穂高8108番地 TEL 0263-82-6090

e-mail yoko@sunnydayazumino.com

URL <http://www.sunnydayazumino.com/> Facebook「小林ようこを応援しよう」